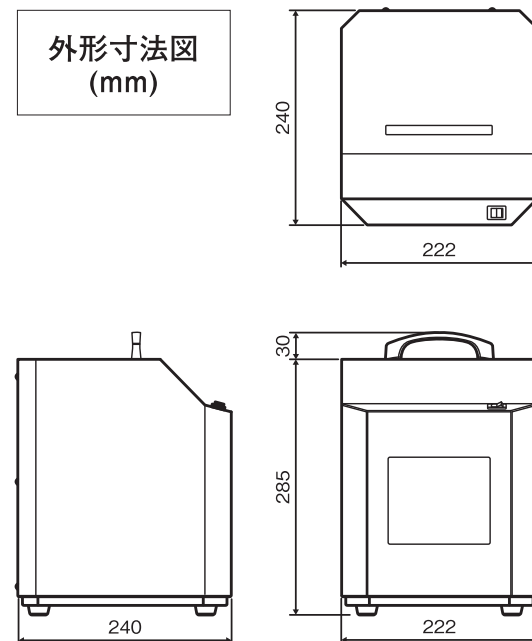
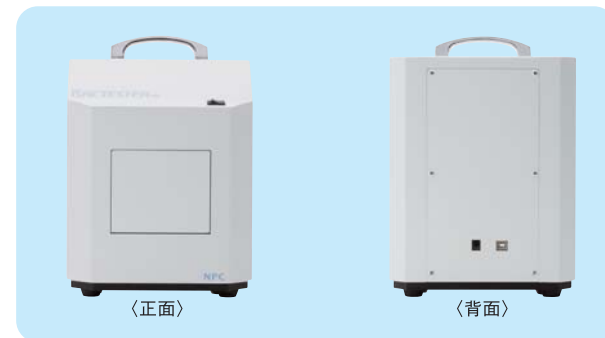


微生物蛍光画像測定機 **BACTESTER[®] ON1** バクテスター・オーエヌワン

仕様

測定方法	蛍光法 直接計量 電子制御による全自動測定
測定時間	約5分以内
測定範囲	1個/ml ~ 99,999個/ml
測定機能	総細菌数 生菌数・死菌数別表示
測定方式	蛍光法により発光体を画像センサーで直接計量
測定視野	約1.2mm×1.6mmを24コマ撮影 菌捕捉面の50%以上を計量
画像センサー	裏面照射型CMOSイメージセンサー 1280×1024ピクセル
励起光	生菌用青色LED 死菌用緑色LED
吸収フィルター	バンドパス(生菌用) ロングパス(死菌用)
インターフェース	USB2.0
対応電源	AC100V~240V, 50/60Hz 専用ACアダプタを使用 DC 24V
消費電力	最大40VA アイドル時21VA(AC100V時)
保証動作温度範囲	5℃ ~ 40℃ 保存も同範囲
湿度範囲	20% ~ 90% 結露無きこと
測定時温度範囲	15℃ ~ 30℃
測定時湿度範囲	20% ~ 90% 結露無きこと
本体寸法	縦240mm 横222mm 高さ285mm
重量	約8.5kg ACアダプタ等の付属品を含まず
本体材質	アルミ・鉄・ステンレススチール 他
PCスペック要件	対応OS:Windows [®] 10(32ビット/64ビット版) Windows [®] 8/8.1(32ビット/64ビット版) Windows [®] 7(32ビット/64ビット版) Windows Vista [®] (32ビット/64ビット版) Intel [®] Core i3 1.5GHz以上 1GB以上のRAM, 1GB以上の空きのあるHDD USB2.0ポート 1個占有



BACTESTER[®]は登録商標です。
 ※Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 ※Intel[®]Coreは米国Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

製品ホームページ
<https://www.bacterester.jp>

⚠ 安全に関するご注意

ご使用の際は、取扱説明書をよくお読みのうえ
正しくお使いください。

測定結果について

- ◎公定法の代わりに用いることはできません。
- ◎菌種の判別はできません。
- ◎全ての菌の計測を保証するものではありません。

保証(書)について

商品には保証書を添付しております。ご購入の際は必ず保証書をお受け取りのうえ保存してください。保証書のご提示がない場合は保証対象外となります。

■お問い合わせ・ご用命は

株式会社 NPC
 〒812-0029 福岡県福岡市博多区古門戸町2-4 KSコンドビル2F
 TEL. (092) 263-7891 (代) FAX. (092) 263-7892 <http://www.n-pc.co.jp>
NPC天神オフィス
 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル7F
 TEL. (092) 718-1470 FAX. (092) 718-1471
 お問い合わせにつきましては、メールでお願いします。メールアドレス: info@bacterester.jp

岡住工業株式会社
 〒807-0831 福岡県北九州市八幡西区則松5-20-13
 TEL. (093) 601-5511 (代) <http://www.okazumi.co.jp>

菌発見。

BACTESTER[®] ON1

微生物蛍光画像測定機 バクテスター

微生物検査×HACCP
 細菌数をリアルタイムに「見える化」。



一般細菌数(生菌・死菌)を同時に約5分で自動測定

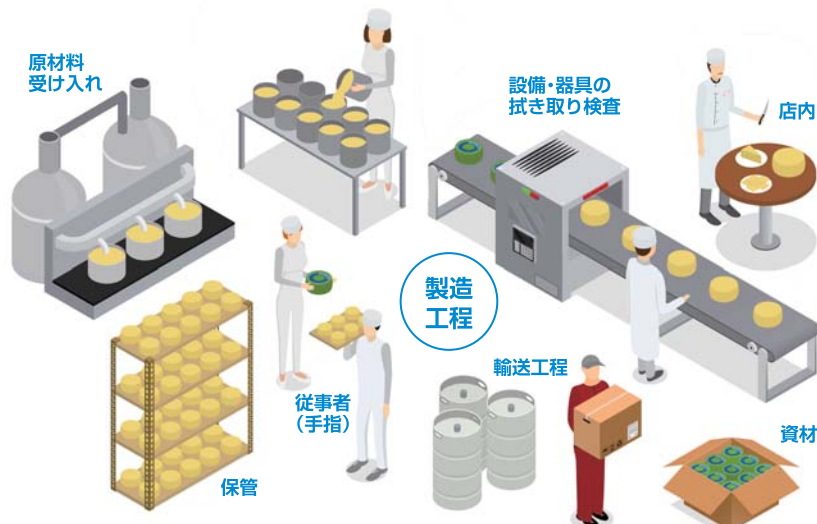
日本薬局方「蛍光染色による細菌数の迅速測定法」に準拠 (第17改正日本薬局方 参考情報に記載)

HACCP導入義務化決定。微生物管理は必須です!

Hazard Analysis and Critical Control Point

わが国では微生物検査を行う場合の標準試験法は培養法ですが、HACCP重要管理点で計画的に菌数測定ができれば微生物汚染原因の早期特定、汚染拡大の抑止、ひいては製品の自主回収リスクの回避にもつながります。

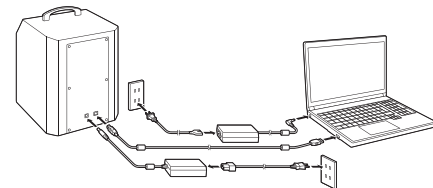
バクテスターがあれば菌を培養することなく一般細菌数(生菌・死菌)の迅速な計測が可能。食品関係に限らず素材、化学、医薬、また物流の分野に至るまで幅広くご活用いただけます。バクテスターの測定原理は「蛍光染色による細菌数の迅速測定法」であり、日本薬局方に記載されています。



微生物蛍光画像測定機 バクテスター導入のポイント

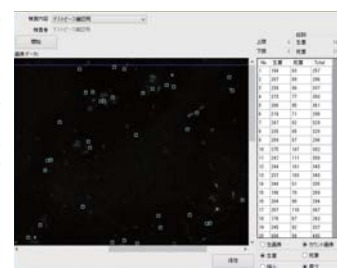
持ち運びOK。一般電源があればどこでも測定

バクテスター本体とノートパソコンを接続すれば準備完了。品質管理室、工場や倉庫で、一般電源とデスク1つ分のスペースがあればどこでも菌数の測定ができます。



蛍光染色した生菌・死菌を同時に1からカウント

検査内容を登録後、専用パソコンの開始ボタンをクリック。バクテスター内部で励起させた菌の蛍光点(生菌・死菌)をCMOSイメージセンサーがとらえて画像化し、フィルター上の菌数(生菌/死菌)・合計菌数・染色画像・菌カウント画像をリアルタイムに確認できます。



検査画面

消耗品は市販品で構成。検査コストは百円台から

測定にはバクテスター専用蛍光試薬が必要です。検体を濾過するメンブレンフィルター、シリンジ、試験管などの消耗品は市販品が使い、オートクレーブ滅菌が可能なものは再利用ができます。検体や検査手法により異なりますが、1回の検査コストは100円台に抑えることが可能です。



測定記録を保存。トレーサビリティ(原因追跡)対応

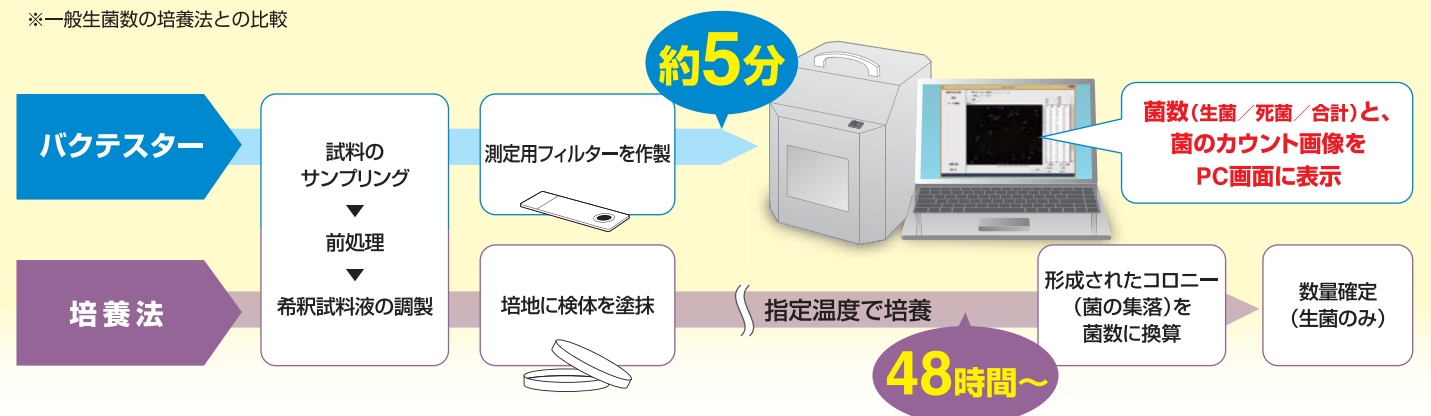
菌数測定データは毎回保存され、検査内容・検査日時・検査者など指定した条件で過去のデータの呼び出しができます。モニタリングの記録はHACCP管理においても重要なポイントです。



データ管理画面

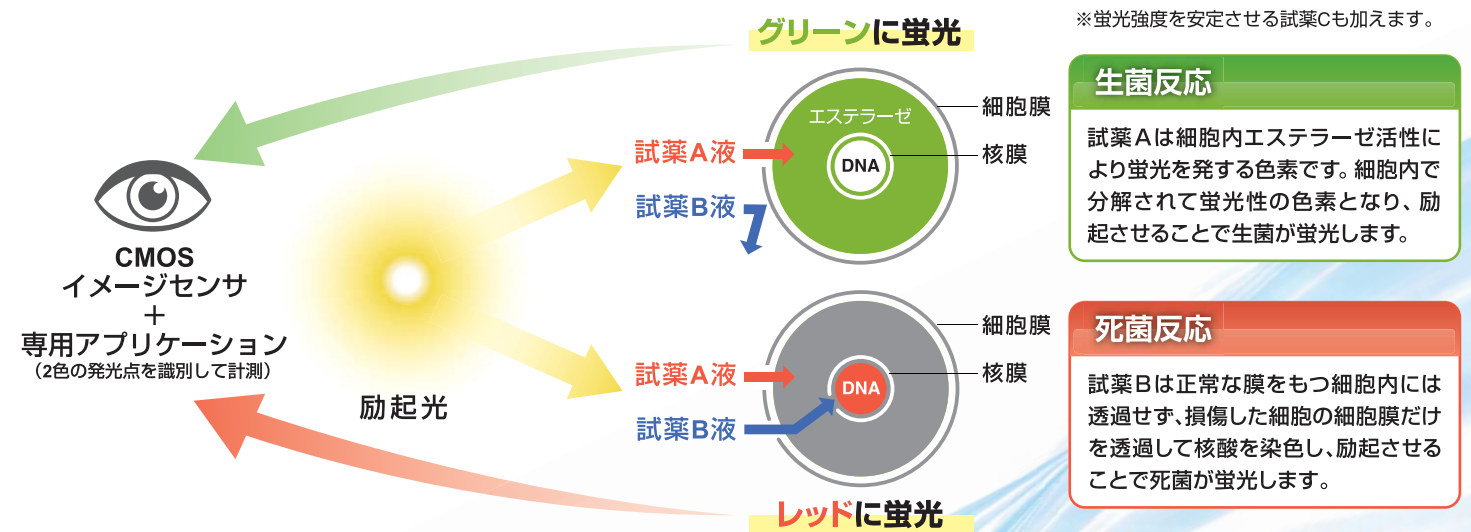
バクテスターは培養不要。検体を濾過したフィルターを本体にセットするだけ!

※一般細菌数の培養法との比較



バクテスターの測定原理

検体に試薬A(生菌用)と試薬B(死菌用)を同時に加えて蛍光染色し、メンブレンフィルターで濾過。フィルターに励起光を照射して生菌と死菌の異なる発光点をCMOSイメージセンサーで捉えて画像化し、カウントします。細菌が増殖する際に生じる電気抵抗や電気伝導度、また、二酸化炭素などのガス量の変化を用いる間接測定も菌数を把握できますが、バクテスターは菌そのものを直接計測する検鏡に近い測定法と言えます。



バクテスター Q&A



なぜバクテスターが必要なのですか?

一般細菌の場合は培養に48時間かかってしまい、それではD+0、D+1の食品においては工場出荷後、人が食してから結果が出ることになってしまいます。これでは食中毒や品質の劣化を未然に防止する対策としては不十分だと言わざるを得ません(培養法は基本的に原因を追求するためのものです)。バクテスターがあればHACCP(ハサップ)における管理ポイントで迅速な微生物(菌数)の把握と記録が可能になりますので、最終製品になる前に安全性を担保することができます。

ATP検査との違いは何ですか?

ATP(アデノシン三リン酸)とは生物のエネルギー源として菌を含むすべての動植物が持っている物質で、体液や食物残渣(ごんざ)にも存在しています。ATP量の測定は汚染状況の目安にはなりますが、菌数を検査することはできません。

培養法との相関性はありますか?

相関データをとることは可能です。バクテスターは検体2mlをフィルターで濾過し、フィルター表面の約50%を計測するため表示された数値は検体1ml中の菌数に相当するとお考えください。ただし、培養法とは異なりコロニー形成前やコロニー形成しにくい菌(viable but nonculturable; VNC・VBNC)も逃がさず菌数計量するため、培養法に比べて多めの数値となる場合があります。

芽胞を持っている菌も測定できますか?

芽胞菌の測定ではヒートショックを与えた芽胞状態にして測定することをお勧めしています。芽胞をそのままにして測定する場合は、試薬の染色時間を長めにとるなどの必要があります。

菌の種類はわかりますか?

バクテスターは食品の微生物汚染の程度を示す最も代表的な指数である一般細菌数を迅速測定する装置です。一部の菌については同定できるように研究開発を進めています。